

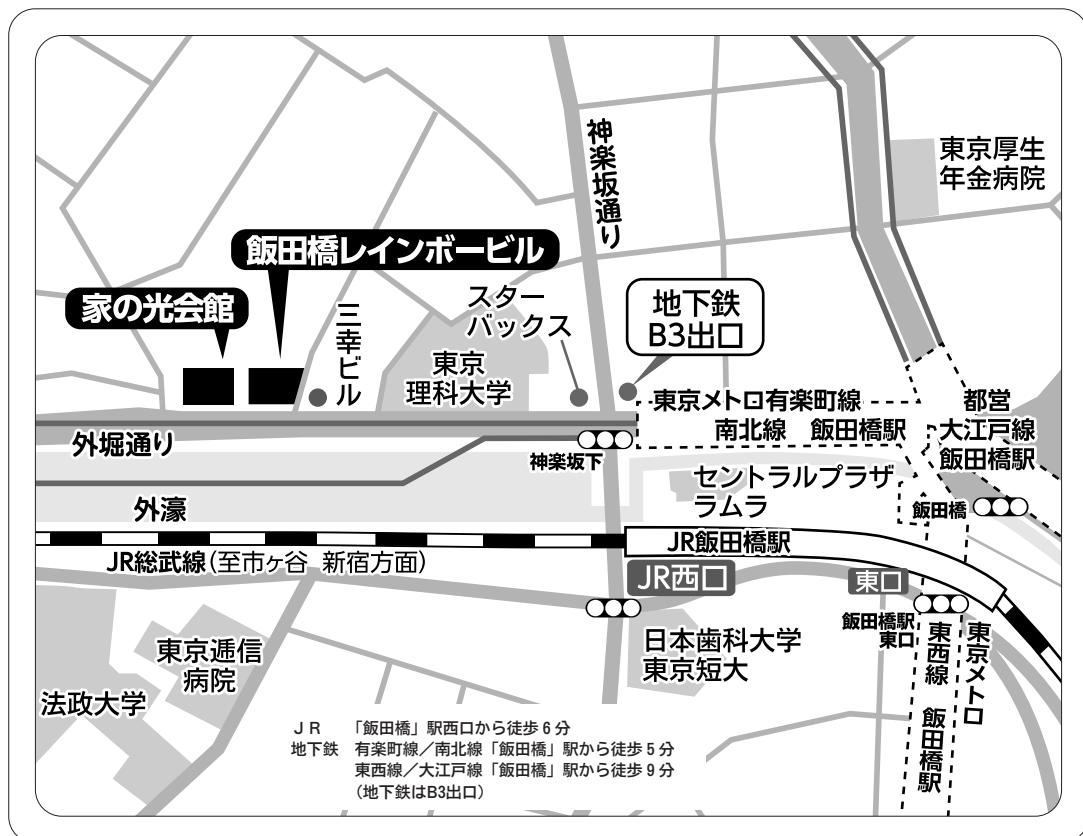
第 621 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プロ グ ラ ム

日 時 平成27年9月12日(土) 午後2時00分

場 所 飯田橋レインボービル 7F 大会議室



演題の申し込みについて

1. ホームページの演題申込用紙にご記入の上 e-mail で事務局宛送ってください。
2. 抄録(160字以内)をおつけください。
3. 原則として指定発言をつけてください。
4. 演者、指定発言者は、ご発表の月末までに二次抄録(200字以内)をe-mailで事務局宛お送り下さい。(日本小児科学会誌掲載の為)

世話人

プログラム係	阿部 祥英
昭和大学小児科	03(3784)8565 (FAX) 03(3784)8362
会場係	東海林宏道
順天堂大学小児科	03(3813)3111 (FAX) 03(5800)0216
事務局	03(5388)7007 e-mail:jpstokyo-office@umin.ac.jp

第621回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1題6分、指定発言5分、追加討論3分以内、厳守のこと。○印演者)

第1グループ 14:00—14:35

座長 滝 元宏（荏原病院小児科）

1) 14番染色体父親性ダイソミー(UPD(14)pat)の超早産児例

○佐藤まゆき¹⁾、池田 奈帆¹⁾、田中 登¹⁾、森 真理¹⁾、池野 充¹⁾、北村 知宏¹⁾、久田 研¹⁾、東海林宏道¹⁾、土井 崇²⁾、山高 篤行²⁾、鏡 雅代³⁾、清水 俊明¹⁾
(順天堂大学小児科)¹⁾、(同 小児外科・小児泌尿生殖器外科)²⁾、
(国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部)³⁾

[在胎27週、1594gで出生した新生児。胎児期より羊水過多と臍帯ヘルニアを疑っていた。出生時、胸郭低形成に伴う呼吸障害、腹壁異常、特異的顔貌、四肢短縮・拘縮を認め、遺伝子検査によりUPD(14)patと診断した。上記所見に加え嚥下障害、動脈管開存などによる呼吸障害の管理に難渋しており、文献的考察を加えて報告する。]

2) 結腸軸捻転を合併したタナトフォリック骨異形成症の長期生存例

○大坪みさき¹⁾、森山 劍光¹⁾、馬場 信平¹⁾、石渡 久子¹⁾、鹿島田彩子¹⁾、菅原 祐之¹⁾、高見 尚平²⁾
(東京医科歯科大学小児科)¹⁾、(東京大学小児外科)²⁾

[6歳女児。頭蓋冠を除く全身骨の発育障害と変形からタナトフォリック骨異形成症と診断し、のちにFGFR3遺伝子変異が確認された。生後8か月で単純気管切開術を行った。生後より腹部膨満が持続したが2015年3月末(6歳)急激に悪化し、腹部CTで結腸軸捻転の診断で開腹し整復術を行った。長期生存例の腹部合併症は、注意を要する。]

3) 妊娠前の風疹抗体価が陽性であった母体から出生した先天性風疹症候群の1例

○澤 友歌、高橋 浩之、佐藤 真理、松裏 裕行、小原 明、佐地 勉
(東邦大学医療センター大森病院小児科)

[32歳の母から生れた第2子。母は13歳時に1回風疹予防接種済で、第1子妊娠時風疹HI抗体価は32倍あったが、患児妊娠6週時に風疹に罹患した。患児は生後4か月までウイルスが検出され難聴のみを認めたが1年内に難聴は回復した。母のsecondary vaccine failureで先天性風疹症候群を発症した症例を経験したので報告する。]

指定発言 宮入 烈(国立成育医療研究センター感染症科)

第2グループ 14:35—15:10

座長 星野 英紀(帝京大学小児科)

4) 過眠と集中力低下を主訴に特発性ナルコレプシーと診断した1例

○大谷 ゆい、小国 弘量、西川 愛子、衛藤 薫、舟塚 真、永田 智
(東京女子医科大学小児科)

[11歳女児。半年前より過眠・集中力低下が出現し、入眠時幻覚、睡眠麻痺、情動脱力発作を認めるようになつたため当科にて精査を行つた。脳波で入眠潜時の短縮あり、長時間記録では脱力発作に一致する異常はなかった。頭部画像所見は正常、髄液中オレキシンは40pg/mL未満で、特発性ナルコレプシーと診断した。文献的考察を加えて報告する。]

5) オキサトミド過量投与の副作用として錐体外路症状を呈した乳児例

○吉澤 和子、直井 和之、西村 有希、渡邊 美砂、松裏 裕行、高橋 浩之、佐藤 真理、
佐地 勉
(東邦大学医療センター大森病院小児科)

6か月女児。手のつっぱり、舌なめずりを主訴に受診、錐体外路症状と考えられた。誤処方された20倍量のオキサトミドを4時間前に内服したことが判明した。副作用、症状は速やかに改善したが、肝逸脱酵素、CKの正常化に1週間を要した。乳児に投与する場合は、投与量と錐体外路症状の出現に十分な注意が必要である。

6) 白血病の診断に単純X線が有用であった1例

○徐 悅¹⁾、水野 貴基¹⁾、川井未知子¹⁾、伊東 藍¹⁾、前川 貴伸¹⁾、大隅 朋生²⁾、
富澤 大輔²⁾ (国立成育医療研究センター総合診療部)¹⁾、(同 小児がんセンター)²⁾

自閉症を基礎にもつ2歳男児。2週間前からの間欠的な発熱と跛行を主訴に救急外来を受診。股関節炎等を疑い、下肢単純X線を撮影。Metaphyseal lucent bandを認めたため白血病が強く疑われ、骨髄検査により急性リンパ性白血病と確定診断した。白血病に特徴的な画像所見について文献的考察を含めて報告する。

指定発言 宮㟢 治 (国立成育医療研究センター放射線診断部)

休憩 15:10—15:20

感染症だより 15:20—15:40 (講演:15分+質疑応答:5分)

座長 和田 紀之 (和田小児科医院)

砂川 富正 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 15:40—16:25 (講演:40分+質疑応答:5分)

座長 伊藤 康 (東京女子医科大学小児科)

熱性けいれんの診療ガイドライン

椎原 弘章 (あしかがの森足利病院神経小児科)

熱性けいれんは乳幼児期に頻度の高い疾患であり、救急外来で診療することも多い。ほとんどの例で長期予後は良好であるが、けいれんに対する家族の驚きや不安は極めて大きく、適切な診断、治療、家族への指導が必要である。

熱性けいれんの管理に関しては熱性けいれん懇話会による1988年の「治療指針」、1996年の「指導ガイドライン」があったが、このたび最近の知見を踏まえて日本小児神経学会によって「熱性けいれん診療ガイドライン」が作成されたので、これを中心に解説する。

第3グループ 16:25—17:05

座長 斎藤 修 (東京都立小児総合医療センター集中治療科)

7) 糖尿病性ケトアシドーシスの急性期に多発性脳梗塞を合併した乳児例

○伊東 正剛¹⁾、河村 研吾¹⁾、鈴木 潤一²⁾、高橋 昌里¹⁾
(日本大学板橋病院小児科)¹⁾、(日本大学小児科)²⁾

8か月女児。意識障害で受診した。血糖887mg/dL、pH 6.932、総ケトン体18440.8 μmol/Lで糖尿病性ケトアシドーシス(DKA)と診断された。ケトアシドーシスは順調に改善したが、入院2日の頭部MRIで多発性脳梗塞を認めた。脳梗塞を合併したDKAの報告は稀ではあるが注意が必要である。

指定発言 浦上 達彦 (日本大学小児科)

8) 慢性食道異物により呼吸器症状を反復した1歳児例

○白根正一郎¹⁾、幡谷 浩史¹⁾、坂口 千穂¹⁾、仁後 紗子¹⁾、鈴木 知子¹⁾、榎原 裕史¹⁾、

寺川 敏郎¹⁾、小森 広嗣²⁾、立花 奈緒³⁾、村越 孝次³⁾

(東京都立小児総合医療センター総合診療科)¹⁾、(同 外科)²⁾、(同 消化器科)³⁾

1歳3か月男児。後期離乳食を開始した9か月頃から喘鳴・咳嗽を反復し、徐々に嚥下障害も顕在化した。胸部CTで食道粘膜肥厚・狭窄と気道の圧排・狭窄を認めたが異物は同定できず、胃瘻造設・食道安静で粘膜肥厚が改善しシールが露出した。慢性食道異物は、初期に呼吸器症状が前面に出ることがあり、稀な疾患だが重症化し得るため鑑別を要する。

指定発言 森 順三郎（慶應義塾大学小児外科）

9) 神経学的後遺症なく回復した劇症型心筋炎の1例

○杉田 和哉¹⁾、山口 有紗³⁾、中野 克俊¹⁾、笠神 崇平¹⁾、田中 優¹⁾、進藤 考洋¹⁾、

清水 信隆¹⁾、平田陽一郎¹⁾、犬塚 亮¹⁾、平田 康隆²⁾、岡 明¹⁾

(東京大学小児科)¹⁾、(同 心臓外科)²⁾、(茅ヶ崎市立病院小児科)³⁾

10歳女児。胸痛発症2日後に近医を受診し、劇症型心筋炎の疑いで当院に紹介となった。来院時pH7.0・顔色不良・心室頻拍を認め来院直後から、心臓マッサージ・人工呼吸器管理を開始しECMOを導入し、神経学的後遺症なく回復した。劇症型心筋炎の診療において事前の準備と速やかな処置の重要性を示す貴重な症例と思われ報告する。

第4グループ 17:05—17:45

座長 山口 賢一（聖路加国際病院 Immuno-Rheumatology Center）

10) ヒトパルボウイルスB19持続感染によって無顆粒球症を来たした1男児例

○梅田 千里¹⁾、山岡 正慶¹⁾、所 陽香¹⁾、尾形 仁²⁾、大山 亘¹⁾、横井健太郎¹⁾、
秋山 政晴¹⁾、齋藤 義弘²⁾、井田 博幸¹⁾

(東京慈恵会医科大学小児科)¹⁾、(東京慈恵会医科大学葛飾医療センター小児科)²⁾

症例は発熱と好中球減少で紹介となった6歳男児。抗好中球抗体や膠原病関連の自己抗体は陰性で、骨髄検査で悪性疾患も否定された。ヒトパルボウイルスB19（PVB19）のIgMとDNA陽性からPVB19による好中球減少症と診断し、発症から4か月で保存的加療のみで回復した。PVB19は赤芽球系の感染が有名だが、本症例では骨髄球系に特異的に作用したものと推察された。

11) 急性外陰潰瘍の13歳女子例

○神尾 朋洋¹⁾、松岡雄一郎²⁾、白山 未央²⁾、岡本 静香²⁾、長谷川典子²⁾、伊藤 路奈³⁾、
玉城 英子³⁾ (杏林大学小児科)¹⁾、(久我山病院小児科)²⁾、(同 産婦人科)³⁾

13歳女子。発熱と外陰部痛を主訴に当科を受診。外陰部に白苔を伴う潰瘍、発赤、腫脹がみられ、抗ウイルス薬と抗菌薬投与を行ったが症状は改善しなかった。血液検査や臨床症状より感染症、膠原病などを否定し、急性外陰潰瘍と診断した。診断と症状の改善に苦慮したため、臨床経過と共に報告する。

指定発言 倉田麻衣子（久我山病院皮膚科）

12) ループス腸炎による急性腹症にて発症したSLEの1例

○奥野 安由¹⁾、松浦 潤¹⁾、大熊 喜彰^{1),2)}、瓜生 英子¹⁾、山中 純子¹⁾、佐藤 典子¹⁾、
七野 浩之¹⁾ (国立国際医療研究センター小児科)¹⁾、(順天堂大学大学院高度専門医療研究コース)²⁾

14歳女子。著明な腹痛、嘔吐、下痢、発熱を主訴に救急受診した。腹部CTで腸管浮腫・腹水を認め、急性腹症の精査・加療のため入院となった。大腸・小腸内視鏡検査を施行したが、回腸・S状結腸に非特異的な粘膜浮腫を認めるのみで診断には至らなかった。第5病日に抗核抗体・抗dsDNA抗体陽性が判明しループス腸炎と診断した。

指定発言 森 雅亮（東京医科歯科大学薬害監視学講座）

【運営委員会だより】

- 平成 27 年 9 月講話会（第 621 回）のプログラム編成について昭和大学小児科の阿部祥英先生より報告がありました。
- 9 月、10 月、12 月講話会の教育講演の講師と座長が確認されました。
- 東京都地方会で作成する「緊急時を念頭にしたメーリングリスト」について、現在の登録数が 272 名（約 12%）であることが報告されました。御登録に際しては、jpstokyokinkyu-group@umin.ac.jp まで、件名にお名前および可能な範囲で施設名をご記入いただきお送りください。尚、既に上記メールアドレス宛にメールを頂いている先生は、登録済みです。
- 今年の東日本小児科学会（平成 27 年 11 月 23 日開催、会長 河島尚志先生）のホームページ (<http://40th-higasinhon-tokyo-med.kenkyuukai.jp/>) が立ち上がったことが報告されました。
- 7 月の講話会出席者は 423 名、新入会 12 名、退会者 0 名、ベビーシッター利用者は 9 名でした。

【演題の申し込みについてのお願い】

- 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。動画使用の場合には、具体的な注意事項を、折り返し事務局よりご連絡いたします。
- 原則として指定発言をつけて下さい。
- 演題の締切は次のようにになります。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1月	前年 11 月 30 日	2月	前年 12 月 25 日	3月	1月 31 日
5月	2月 28 日	6月	4月 30 日	7月	5月 31 日
9月	6月 30 日	10月	8月 31 日	12月	9月 30 日

申込演題が 12 題以上になった場合、さらに 1 回先になることがありますのでご了承ください。

その場合、事務局よりご連絡します。

【演者の先生方へのお願い】

- 一次抄録は 160 字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の 200 字以内を厳守くださいようお願いいたします。（原稿はワード入力で e-mail にて事務局へお送り下さい。）
- 出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期）に Take Home Message（この発表から学ぶこと）を手短な一文で記したスライドを付け加えていただくようお願いいたします。

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- 退会される場合も必ずご連絡下さい。そのお届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局 e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp / FAX : 03 (5388) 5193

Presentationについて

発表は Computer Presentation (Windows) のみで受け付けます。Powerpoint 2000 以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは USB メモリーにて、第 1、2 グループ発表者は午後 1 時 30 分までに、第 3 グループ以降の発表者は午後 3 時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス check をお願ひいたします。

動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようにお願い致します。
- ② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡ください。
- ③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承下さい。

〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の 1 週間前までに事務局へお申し込み下さい。申し込みの際、お預けになるお子様の氏名・年齢・性別・および預けられる時間帯を伺います。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。また申し込み受付後、問診票に記載していただきますことをご了承下さい。キャンセルされる場合は、3 日前までにご連絡をお願いします。なお費用は学会が負担いたします。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193

月刊誌「小児科臨床」のご案内

月刊誌「小児科臨床」は、1948 年創刊以来一貫して 小児科学の投稿誌としてのスタンス を守り、若い小児科医の研究発表の場として活用されています。

弊誌は増刊号を含めて年間 13 号を発刊し、小児医療・小児保健に関わる多くの先生方から、日常の臨床に役立つ雑誌としてご好評頂いております。

編集顧問

藤井良知・加藤精彦・早川浩

(第 67 卷 2014 年)

4 号 特集

小児感染症の予防 2014

編集委員

別所文雄・水口雅・岩田敏・松山健

増刊

幼稚園保健 2014

発 行

月刊(毎月 20 日発行・土日祝は繰り下げ)

12 号 特集

子どもと食 2014

定 價

普通号(年10回) 本体 2,600 円 + 税

(第 68 卷 2015 年)

4 号 特集

私の処方 2015

特集号(年 2 回) 本体 4,700 円 + 税

8 号 ミニ特集

小児喘息の治療 Update

増刊号(年 1 回) 本体 6,200 円 + 税

9 号 総説

時間治療 - 現状と展望 -

年間購読料(前納) 本体 41,600 円 + 税

